

東日本大震災! 被災地・被災者支援へ!!



3月11日に発生した大地震により、東日本各地で甚大な被害が発生しました。

宍粟市社協では、被災地や被災者を支援するため、次のような活動に取り組みました。

4/1(金) 宮城県岩沼市で災害ボランティア活動 4/4(月)



畳を運び出すボランティア(岩沼市の市営住宅にて)

一昨年の豪雨災害で全国各地からボランティアに来ていただいたお礼を込め、災害救援活動への参加を呼びかけたところ、市内だけでなく県内各地から39名が参加しました。

4月1日(金)の夕方に宍粟市役所を出発したバスは、約13時間かけて岩沼市に到着。災害ボランティアセンターのスタッフ(社協職員)から説明を受けた後、岩沼市でとくに被害の大きかった市営住宅での泥かき、泥だし、家具や畳の運び出しなどを行いました。

きびしい作業が続きましたが、「遠くから来ていただき本当にありがとうございました。助かったわ。」との被災された方からの言葉をいただき、精一杯の救援活動を行うことができました。

2日間の活動終了後、市営住宅の代表者から涙ながらの感謝の言葉をいただきました。

今回の活動にはバス代等の経費として多額の募金や市内の飲食店から車中でのお弁当の提供など多くの方から協力をいただきました。

みなさん、ありがとうございました。

3/26(土) 宮城県南三陸町へ職員派遣 4/1(金)

南三陸町は他の被災地と比べても津波の被害が甚大で、町の約8割が壊滅。人口の約半数が死亡・行方不明という状況。ライフラインは寸断され、電気は5月、水道は9月に復旧の見通しです。



思い出探し隊が瓦礫の中から写真などを回収



町の中心部。公共機関やデパートなど全て津波で跡形もなく流されている

近畿ブロック社協職員派遣の一員として、3月26日(土)から4月1日(金)の日程で南三陸町へ赴き、同町の災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。

現地では拠点となるベイサイドアリーナでのボランティア派遣と調整、町内に45か所ある避難所のニーズ調査、また町長から津波で流された写真や思い出の品を集めてほしいと依頼があり、ボランティアを募り「思い出探し隊」を結成し、活動しました。

現地にきたボランティアは、想像を絶する光景を目の当たりにし、涙を流しながら活動。そして何より避難所にいる住民自身が協力し合い、連携をとって活動をされている姿に、復興への希望を感じました。

被災地支援活動は始まったばかりです。今後どれだけの時間がかかるかわかりません。みなさんも自分にできるボランティアを何か一つでも見つけて、被災地支援にご協力ください。

(本部 田中祥仁)

3/24(木) 防寒着を宮城県へ



三木防災公園で箱詰めした防寒着を降ろす職員

兵庫県災害対策支援本部からの呼びかけで、新品、新古品の防寒着(コートやジャンパー)を集めさせていただいたところ、多くの方にご協力いただきました。

今回、寄せられた防寒着は、総計231着。

段ボール20箱に整理をし、24日に県立三木総合防災公園へ届けました。

みなさん、本当にありがとうございました。

3/25(金) 水害VCの機材を石巻市へ



一宮保健福祉センターで機材を積み込む職員

津波が襲った沿岸部では、海水が引かず「水害のような状態」と被災地へ派遣された県社協職員からの報告を受け、宍粟市社協では、一昨年の台風9号による豪雨災害のボランティアセンター(VC)で活用した機材を宮城県石巻市へ送りました。